

平成13年度石川県保育士試験問題

児童心理学(その1)

1 次に示した各群の記述について、正しいものすべてを選び、[]内にその番号を記入しなさい。

(1) []

- 1 実験法では、自然な生活場面での行動を明らかにするために、偶然生起する特定化された行動を観察する。
- 2 実験法では、他の研究者が、同じことを繰り返し検証することが出来る。
- 3 実験法では、関係する条件を組織的に統制することが出来る。
- 4 他の方法に比較して実験法では、研究者のもつ仮説を検証するには適していない。

(2) []

- 1 発達に影響する具体的要因が遺伝要因であるか環境要因であるかについて、明確でないものもある。
- 2 ジェンセンによる環境閾値説は、発達が環境要因によって強く影響されることを説明している。
- 3 双生児統制法によって、発達における環境要因の影響を明らかにすることができる。
- 4 発達において初期経験は重要であり、後になっての改善はほとんど無理である。

2 次に示した各群の記述について、正しいものすべてを選び、[]内にその番号を記入しなさい。

(1) []

- 1 幼児期では、いわゆる表象は困難である。
- 2 5歳くらいになると、子どものことばは、ほとんど二次のことばになる。
- 3 幼児期の子どもには、ことばの内言的機能は見られない。
- 4 コミュニケーションのためのことばの機能は外言的機能と呼ばれる。

(2) []

- 1 子どもがほめられたり叱られたりしなくても、その子どもの行動が変わることがある。
- 2 子どもに望ましい行動を獲得させるために、ほめたり叱ったりすることは望ましくない。
- 3 肯定的な感情を持つ大人と、行動が似てくることがあり、これを同一化と呼ぶ。
- 4 ほめられている子どもを見て、その子どもと同じような行動をするようになることがある。

3 次の各用語について、下の記述の中で正しいものひとつを選び、その番号を [] に記入しなさい。

(1) ストレンジ・シチュエーション法 []

- 1 対人的技能の発達
- 2 感受性の発達
- 3 愛着の発達
- 4 自律性の発達
- 5 認知発達

(2) 環境に積極的にはたらきかける傾向・能力 []

- 1 レディネス
- 2 自己認知
- 3 受容
- 4 均衡性
- 5 コンピテンス

(3) 自分のやり方で実行してうまくいかない時には、やり方を修正する。 []

- 1 環境との相互作用
- 2 均衡性
- 3 シェマ
- 4 同化
- 5 調節

受験番号

受験番号

平成 13 年度石川県保育士試験問題

児童心理学 (その2)

4 幼児期において、友達関係はどのように変わっていきますか。その発達の特徴を、児童心理学の視点から分かりやすく説明しなさい。

5 子どもの周りのさまざまな環境の影響を受けて、子どもは成長・発達しますが、一方的に環境から影響を受けるだけではありません。これを発達における「個体と環境との相互作用」と呼びますが、これはどのようなことですか。具体的な例を挙げながら、分かりやすく述べなさい。

受験番号